

再 評 価 書

箇所名	一般国道421号 大安ICアクセス道路	事業名	道路事業	課名	道路建設課 (桑名建設事務所)
事業概要	工期 (下段当初)	H24年度～H36年度 年～年	全体事業費 (下段当初)	4,000百万円(負担率:国5.5、県4.5) 百万円(負担率:国:県:他)	
	事業目的及び内容				
<p>○当該路線の概要</p> <p>一般国道421号は、桑名市の国道1号を起点とし、いなべ市を経て、滋賀県近江八幡市に至る延長約7.2kmの幹線道路です。</p> <p>当路線は、いなべ市と桑名市街地を直結する生活道路として、また、いなべ市北部及び桑名市に立地している企業工場の産業道路として、重要な役割を担う道路となっています。</p> <p>当該地域には、東海環状自動車道の整備が進められており、平成30年度には東員IC～(仮称)大安IC間、平成36年度には(仮称)大安IC～(仮称)北勢IC間が開通する予定となっており、更なる交通量の増加が見込まれています。</p> <p>国道421号大安ICアクセス道路の整備により、新たに二級河川員弁川を渡河する道路が整備され、二級河川員弁川両岸の公共拠点施設間のアクセス強化、沿道企業等の物流の効率化、現道で慢性的に発生している交通渋滞の分散化とともに、地域の社会経済活動の活性化が期待されます。</p> <p>○事業目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般国道421号の交通渋滞の緩和 ・地域産業の活性化 <p>○事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業期間 : 13年間(平成24年度～平成36年度) ・全体事業費 : 4,000百万円(工事費:3,689百万円、用地補償費:311百万円) ・計画延長 : 3,500m(バイパス区間2,200m、4車線拡幅区間1,300m) ・幅員 : バイパス区間6.5m(11.5m)、4車線拡幅区間13.0m(22.25m) 					
事業主体の再評価結果					
<p>1 再評価を行った理由</p> <p>社会経済情勢の急激な変化などにより、再評価を実施する必要が生じたため、三重県公共事業再評価実施要綱第2条の4に基づき、再評価を実施しました。</p>					
<p>2 事業の進捗状況と今後の見込み</p> <p>2-1 事業の進捗状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度末の事業進捗率は、15%(工事が12%、用地取得が49%)となっています。 ・現在二級河川員弁川に架かる橋梁の下部工事を行っています。 <p>2-2 今後の見込み</p> <p>平成36年度の全線供用に向け、事業を推進します。</p>					
<p>3 事業を巡る社会経済情勢等の変化</p> <p>東海環状自動車道が平成29年度に新四日市JCT～東員IC間が開通し、平成30年度に東員IC～(仮称)大安IC間、平成36年度に(仮称)大安IC～(仮称)北勢IC間が開通予定となっています。また、平成30年度には新名神高速道路の新四日市JCT～(仮称)亀山西JCT間が開通する予定であり、高速道路のネットワークが充実します。さらに、いなべ市では近年企業の新規進出や事業拡張が進んでいます。そのため、高規格幹線道路ICへのアクセスの強化となる本事業の必要性は一層高まっており、当該事業の必要性に変化はありません。</p>					

4 事業採択時の費用対効果分析の要因の変化、地元意向の変化等

4-1 費用対効果分析

① 前回評価時の費用対効果分析の結果

【事前評価時】(H29年時)	
総費用 (C)	36億円
総便益 (B)	105億円
費用便益比 (B/C)	= 2.9

②費用対効果分析の結果

費用便益比 (B/C)	総費用 (C) (残事業) / (事業全体)	総便益 (B) (残事業) / (事業全体)
【事業全体】 6.3	26/35億円 事業費 : 25/34 億円	223/223 億円 走行時間短縮便益: 204/204 億円
【残事業】 8.7	維持管理費: 1.1/1.1 億円	走行経費減少便益: 17/17 億円 交通事故減少便益: 1.8/1.8 億円

③感度分析の結果

【事業全体】	【残事業】
交通量: B/C = 4.7~9.5 (±10%)	交通量: B/C = 6.4~13.2 (±10%)
事業費: B/C = 5.9~6.7 (±10%)	事業費: B/C = 7.9~9.6 (±10%)
事業期間: B/C = 6.0~6.6 (±10%)	事業期間: B/C = 8.3~9.0 (±10%)

※出典：費用便益分析マニュアル（平成30年2月 国土交通省 道路局 都市局）

4-2 その他の効果

○地域産業の活性化

(仮称) 大安 IC 周辺には多くの企業が立地し、近年、新規進出や事業拡張する企業が現れています。国道421号の三笠橋付近では、特に朝夕の通勤時に慢性的な渋滞が発生しており、東海環状自動車道(仮称) 大安 IC が開通した場合には(仮称) 大安 IC を利用する交通が現道の国道421号へ集中し、渋滞の悪化が懸念されます。そのため、大安 IC アクセス道路の整備により、交通が分散され(仮称) 大安 IC へのアクセスが向上することになり、周辺に立地する企業の活動を支援します。

○地域拠点へのアクセス強化

いなべ市役所員弁庁舎と大安庁舎が二級河川員弁川の両岸に立地しており、大安 IC アクセス道路の整備により、拠点間の所要時間が短縮し、これら拠点へのアクセス向上が期待されます。

○安心・安全の確保

現道の国道421号では、平成27年から現在までに、29件の交通事故が発生しており、うち死亡事故が1件発生しています。大安 IC アクセス道路の整備により、国道421号に集中している交通が分散され、交通事故の減少が期待されます。

○災害時のネットワーク強化

(仮称) 大安 IC の周辺には、防災拠点となるいなべ市員弁庁舎および大安庁舎が立地しています。いなべ市防災計画において当該地域の第1次防災拠点に定められている、桑名地域防災総合事務所や陸上自衛隊久居駐屯地との緊急輸送ネットワークとして東海環状自動車道が用いられることが予想され、大安 IC アクセス道路の整備により、災害時のネットワークが強化されます。

4-3 地元意向

平成30年8月に「三重県市長会」から提出された三重県への要望では、国道421号大安インターアクセス道路の早期完成を強く要望されています。

5 コスト縮減の可能性や代替案立案の可能性

5-1 コスト縮減

主要構造物として橋梁を1橋計画していますが、耐候性鋼材を使用し、塗装費用を縮減します。

また、道路法面の一部に張コンクリートを行い、草刈に要する維持管理費を縮減します。

さらに、道路の盛土材については、他工事との調整を図り、購入土を用いず他工事で発生する建設発生土を使用し、コスト縮減を図ります。

5-2 代替案

既存家屋への影響などをもとに、既存の国道421号を拡幅するルート(案)と計画ルート(案)を比較、検証したところ、国道421号を拡幅するルート(案)は補償物件が多く地域に与える影響が大きいことから、計画ルート(案)を最適ルートとして採用したところです。

再評価の経緯

再評価の経緯はありません。

事業主体の対応方針

三重県公共事業再評価実施要綱第3条の視点を踏まえて再評価を行った結果、同要綱第5条第1項に該当すると判断されるため当事業を継続したいと考えています。